

地域包括支援センター職員向け

完成版

「パーソン・センタード・ケア」の視点を活かしたご本人と介護家族のための 「大府センター式」コミュニケーションパック

説明書



認知症介護研究・研修大府センター



一緒に話そう

今までのこと
これからのこと







もくじ



コミュニケーションパック について

コミュニケーションパックの構成	3
I 「認知症の医学的理解」シートの詳細	
II 「パーソン・センタード・ケアの理解」 シートの詳細	
III 「相談シート」(記入例付) の詳細	
コミュニケーションパックのねらい	7
コミュニケーションパックの特徴	8
対象となる介護家族	9
期待される効果	10

コミュニケーション パックの構成

このパックは

- ①「認知症の医学的理解」シート
 - ②「パーソン・センタード・ケアの理解」シート
 - ③「相談シート」
- の3部構成になっています。

これらのツールは段階的に使うものではありません。相談（面談）をしていく中で、場面に応じて、必要な時に必要な部分のみを引き出して、使っていただくことを想定したパックです。

なお、「パーソン・センタード・ケアの理解」シートを使用する前に、「パーソンセンタードケアって何」という入門書的なリーフレットを読んでいただくと、シートの活用に役立つと思います。



認知症の医学的理



もくじ

I-① 認知症とは、老化ですか？病気ですか？

I-② 認知症はどんな病気？

I-③ 加齢によるもの忘れと、認知症によるもの忘れ

I-④ 軽度認知障害（MCI）って何ですか？

I-⑤ 軽度認知障害（MCI）と認知症の関係

I-⑥ 認知症の原因疾患は？

I-⑦ 認知症が疑われたら

I-⑧ 重要なこと！

I-⑨ 認知症の診断基準

I-⑩ 認知症の診断

I-⑪ アルツハイマー型認知症の初期症状は？

I-⑫ アルツハイマー型認知症の経過

I-⑬ 認知症の症状は？

I-⑭ 認知症の症状をまとめると

I-⑮ 家族や周辺の人の不適切な対応 質の悪いケア I

I-⑯ 家族や周辺の人の適切な対応 質の良いケア I

I-⑰ 家族や周辺の人の不適切な対応 質の悪いケア II

I-⑱ 家族や周辺の人の適切な対応 質の良いケア II

I-⑲ 脳血管性認知症の症状

I-⑳ レビーカーブ型認知症の特徴

I-㉑ 認知症の促進因子と防御因子

I-㉒ ~ I-㉓ 認知症の促進因子と防御因子



I

I 「認知症の医学的理

介護家族の方に、認知症についての正しい理解を促すために、知っておいてほしい医学的知識の教材としてお使いください。

具体的には、相談シートを使いながら会話を進めるときに、介護者やご本人の困りごとばかりにとらわれて、認知症という病気が原因で起こっている現象が、置き去りになっていることがあります。

相談シートでは、3) 認知症の状態／現在の健康状態の項目で、必要に応じて使っていただくのも効果的です。

もくじ

I-① 認知症とは、老化ですか？病気ですか？

I-② 認知症はどんな病気？

I-③ 加齢によるもの忘れと、認知症によるもの忘れ

I-④ 軽度認知障害（MCI）って何ですか？

I-⑤ 軽度認知障害（MCI）と認知症の関係

I-⑥ 認知症の原因疾患は？

I-⑦ 認知症が疑われたら

I-⑧ 重要なこと！

I-⑨ 認知症の診断基準

I-⑩ 認知症の診断

I-⑪ アルツハイマー型認知症の初期症状は？

I-⑫ アルツハイマー型認知症の経過

I-⑬ 認知症の症状は？

I-⑭ 中核症状とは？

I-⑮ 中核症状ってなんですか？ I

I-⑯ 中核症状ってなんですか？ II

I-⑰ 行動・心理症状 (BPSD)

I-⑱ 行動・心理症状ってなんですか？ (BPSD)

I-⑲ 認知症の症状をまとめると

I-⑳ 家族や周辺の人の不適切な対応 質の悪いケア

I-㉑ 家族や周辺の人の適切な対応 質の良いケア I

I-㉒ 家族や周辺の人の適切な対応 質の良いケア II

I-㉓ 脳血管性認知症の症状

I-㉔ レビーカーブ型認知症の特徴

I-㉕ ~ I-㉗ 認知症の促進因子と防御因子

II

認知症介護研究・研修大府センター

パーソン・センタード・ケアの理解

もくじ

- II-① 認知症の人を理解する手がかりを見つけましょう
- II-② 5つの要素
- II-③ 要素.1 脳の障害
- II-④ 要素.2 健康状態
- II-⑤ 要素.3 生活歴
- II-⑥ 要素.4 性格
- II-⑦ 要素.5 環境 (対人的、社会的、物理的)
- II-⑧ 認知症ケアの目標は何ですか？
- II-⑨ 認知症の人の心理的ニーズ
- II-⑩ くつろぎ
- II-⑪ 自分が自分であること
- II-⑫ 結びつき (愛着・こだわり)
- II-⑬ たずさわること
- II-⑭ 共にあること
- II-⑮ よい状態とは？
- II-⑯ よくない状態とは？
- II-⑰ よくない状態に向かわせる状況

II 「パーソン・センタード・ケアの理解」

パーソン・センタード・ケアでは、ご本人がどのように感じているかをもっと大事に考えています。ご本人の気持ちに寄り添うことができるようになれば、介護負担の軽減に繋がるサポートができるようになるでしょう。

この教材を使う前に、まず援助者（専門職）がパーソン・センタード・ケアの理念を理解することが必要です。その上で介護家族の話を引き出しながら、認知症の人の行動に影響を与える要因について介護家族自らが気づくよう促していく教材としてお使いください。

具体的には、「パーソン・センタード・ケアの理解」のII-①「認知症の人を理解する手がかりを見つけましょう」では、なぜ行動・心理症状が起こるのかを簡単に解説しています。

またII-②～II-⑯は相談シートの3)～5)の各項目にある「ご本人の気持ち」を探るヒントになり、6)ご本人はどうしたかったのでしょうか、7)今後の関わり方に、繋がる基礎的な考え方の教材となるでしょう。

もくじ

- | | |
|-----------------------------|---------------------|
| II-① 認知症の人を理解する手がかりを見つけましょう | II-⑩ くつろぎ |
| II-② 5つの要素 | II-⑪ 自分が自分であること |
| II-③ 要素.1 脳の障害 | II-⑫ 結びつき (愛着・こだわり) |
| II-④ 要素.2 健康状態 | II-⑬ たずさわること |
| II-⑤ 要素.3 生活歴 | II-⑭ 共にあること |
| II-⑥ 要素.4 性格 | II-⑮ よい状態とは？ |
| II-⑦ 要素.5 環境 (対人的、社会的、物理的) | II-⑯ よくない状態とは？ |
| II-⑧ 認知症ケアの目標は何ですか？ | II-⑰ よくない状態に向かわせる状況 |
| II-⑨ 認知症の人の心理的ニーズ | |

III 相談シートの使い方マニュアル

もくじ

- Ⅲ-1 相談シートのねらい
- Ⅲ-2 活用の留意点
- Ⅲ-3 会話の手順
- Ⅲ-4 会話を進めていく流れと留意点
- Ⅲ-5 シートの説明具体例

ご本人: _____ 相談者: _____ 記入用

(年齢)
(性別) 年 月 日 月 介護度:

記入日:

III 相談シート

3 認知症の状態 (D)

ご本人の気持ち

ご本人の健康状態 (K1) (身体と心の状態、就寝・起床下りなど)

ご本人の性情 (S1)

4 環境・生活歴 (S2) (生活のパターン、好きなこと・嫌いなこと)

ご本人の気持ち

ご本人の性情 (S1)

1 家族が現在困っていること

2 その時のご本人の様子

3 お取り扱い人たちとの関わり (K2)

4 介護者の状況・思い

5 ご本人はどうしたかったのでしょうか

6 ご本人はどうしたかったのでしょうか

III 「相談シートの使い方マニュアル」

パーソン・センタード・ケアで重視される「認知症の症状理解に必要な5つの要素」という視点からアプローチすることを意図した「相談シート」は、コミュニケーションパックの目玉です。介護家族と話し合いながら、このシートにそって、認知症の人の行動の背景や気持ちを共に考えていくうちに、認知症の人に対する偏見や思い込みが解け、複雑な状況も次第に整理され、ご本人や家族の真のニーズに気づく。これが相談シートの狙いです。

5つの要素とは、「パーソン・センタード・ケアの理解」Ⅱ-②で述べたように、脳の障害 (Dementia認知症のD)、性格 (S1)、生活歴 (S2)、健康状態 (K1)、環境 (K2) です。S,Kはそれぞれのローマ字読みの頭文字です。一口で言えば、Dプラス2S、2Kです。

7項目からなる「相談シート」の3-5はD、S、Kに関連した項目です。なお「相談シート」の1は「家族が現在困っていること」つまり家族のニーズ (N1) であり、6「ご本人はどうしたかったのでしょうか」は、認知症ご本人のニーズ (N2) です。この2つのニーズに基づき、7[今後の関わり方]を模索することになります。「相談シート」は、「Dプラス2S、2K、2N (DSKN)」だと要約できます。

「相談シート」の具体的使い方では、「相談シート」の記入の仕方よりも、会話の進め方に重点を置き、解説しています。また「認知症の医学的理 解」や「パーソン・センタード・ケアの理解」の教材を併せて使用して頂くと効果的です。

コミュニケーション パックのねらい

- 家族が認知症になると、介護者は「今までと別人のようになつて、わけのわからないことをする」、「私に対して嫌がらせをしているに違いない」などと感じ、混乱状態に陥ることがあります。
- それは、認知症に対する知識不足や「認知症になると何もわからなくなる」と決め付ける誤解などから起こる場合が多いのです。
- 認知症の人の行動の背景や本人の思いなどを共に考えながら、介護者自らが誤解や混乱を整理していくように、手助けするのがこのパックのねらいです。
- 相談シートに書き込むために、介護家族から無理やり話を聞き出したり、専門職が介護指導をするために使用するものではありません。



コミュニケーション パックの特徴

- 地域包括支援センター職員による、介護家族を支援するためのパック。
- 相談場面では、相談シートを利用し、家族と共に書き込みながら、状況を整理するために使用できる。
- あるいは、相談後にセンター職員が内容を整理するために使用することもできる。
- 認知症のご本人の行動の理由を知るために、背景となるいくつかの要因に沿って、家族と職員が共に考え方を整理することができる。
- 「本人はどのような気持ちで行動しているのか」を度々問い合わせることで、家族の視点の転換を図ることができる。



対象となる介護家族

- 認知症の症状が初期から中期までの混乱期の方（徘徊や暴力、その他、家族がどうしてよいか困る行為などがみられる方）を介護されている家族。
- 認知症についてあまり知識がなく、「嫌がらせをしている」「何もわからなくなつた」などと誤解をされている家族。
- 前向きに現状を変えたいと思っている方。



期待される効果

- 認知症のご本人を見る視点が広がって、考えられる選択肢が広がる。
- 認知症にまつわる困り事の、とらえ方が違ってくる。
- 考え方のバリエーションが広がり、介護負担の軽減につながるサポートができる。
- 本人の思いを知ることで、どんな支援が必要か、より具体的になってくる。
- コミュニケーションを通して、家族と職員の信頼関係が深まる。



発行／社会福祉法人 仁至会
認知症介護研究・研修大府センター
〒474-0037 愛知県大府市半月町三丁目294番地
TEL:0562-44-5551 FAX:0562-44-5831

印刷／有限会社 一粒社
〒475-0837 愛知県半田市有楽町7-148-1

無断転写・転記・複写を禁ず。
このパンフレットは平成21年度独立行政法人福祉医療機構「長寿・社会福祉基金」助成事業により作成されたものです。

